

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
<p>豊かな心で 勸興魂の実現をめざす 子どもの育成</p> <p>勸興魂 ～勉強はベストをつくり 運動はくたくたになるまで～</p>	<p>①学力向上の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分かる授業の実践</li> <li>・指導方法、形態の工夫・改善</li> <li>・体験活動の充実</li> <li>・家庭学習の充実</li> </ul> <p>②豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活習慣の確立</li> <li>・道徳の時間と体験活動を関連付けた授業の実施</li> <li>・ボランティア活動の推進</li> </ul> <p>③特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導の充実</li> <li>・「自己有用感」の醸成</li> <li>・特別支援学級の活用</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本の定着</li> <li>・課題解決型学習の推進</li> <li>・学習規律の確立</li> <li>・支持的風土にもとづく学級経営</li> <li>・「自己尊在感」の醸成</li> <li>・自他尊重の精神の育成</li> <li>・通級指導教室の活用</li> </ul>

達成度 A: ほぼ達成できた  
B: 概ね達成できた  
C: やや不十分である  
D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
① 学力向上の推進							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○教職員の資質向上	・学級・学年経営力、授業力の向上	・学級経営案並びに複数担任経営案を策定する。 ・1年に少なくとも1回全員が指導案に基づいた研究授業を行い、個々の授業力及び学校全体の教育力を高める。	・PTA総会までに学級経営案及び複数担任経営案をもとに、各学級各学年の1年間の指導方針を確認する。 ・校内研修の年間計画に全職員研究授業を位置づけ実践する。	A	【教頭】 ○複数担任経営案をもとに1年間の指導方針を確認した。 ○同学年の担任が協力し学年全体に目を配りながら学習や生活の指導を行うことができた。 ○全ての教員が校内研究のテーマに基づいて指導案を作成し、研究授業を実施、事後の研究会を設けて授業力の向上に努めた。	・同学年の担任が交換授業や合同授業を実施し、協力体制の中、学年全体に目を配りながら、各学級における支持的風土づくりに努めてきた。さらに、児童が、積極的に理由と根拠を出し合ったり、問いを重ね合ったりする学び合いが成立する学級集団づくりに取り組んでいきたい。 ・引き続き全員が授業を公開し、授業改善に向け努力していく。教材研究を深めながら授業の質を高めていく必要がある。
	●学力の向上	・基礎・基本となる学力の定着及び思考力・活用力の向上	・全国並びに県の学習状況調査で明らかになった課題の解決を図り、前年度の結果を上回る。 ・算数科を中心に思考力・表現力を高める。「(かいわタイム)」の他教科への広がり	・研究主任、副主任、国語・算数・社会・理科主任を中心に課題分析にあたり、具体的な指導改善を策定し、実践化を行う。 ・月曜日の朝、4年生以上に「すすくテスト」を行い、火曜日の放課後「すすくタイム」で基礎・基本の補充指導を行う。 ・金曜日の朝の時間にチャレンジタイムを設け、算数科における基礎・基本の定着を図る。 ・ノート指導や板書計画について、指導・実践を継続し、定着	A	【教務主任、研究主任、研究副主任】 ○学力状況調査の結果については、全職員で分析し、具体的な対応策まで考え、実施することができた。 ○5年生6年生の社会の思考・判断以外は、県平均を上回っていた。 ○同一児童の経年比較をすると、算数のB問題(活用)については伸びてきているが、国語のB問題(活用)は、若干落ちている。 ○ノート指導や板書については、共通した指導が行われている。「めあて」の提示については、全職員が行っている。	・早い段階で、学習状況調査の分析を行い、結果の分析を元に、さらに幅広い指導力と指導法を研究・実践していく必要がある。特に「書く」ことへの指導の充実が図られることが必要である。 ・算数科で取り組んだ「伝え合い活動(かいわタイム)」を他教科にも取り入れ生かしていきたい。 ・ノート指導や板書計画についても指導・実践の継続を図っていきたい。

教育活動	○学校連携	・小中連携教育の推進 ・幼保小連携の強化	・小中三校の連携を深め、児童の中学校進学に対する不安を解消する。 ・参観や連携会議など、幼稚園や保育園との情報交換を年3回以上は行い連携を深める。	・成章中、神野小との合同授業研、出前授業等や夏休みに子ども向けワークショップを開催し、教師間・子ども間の連携を図る。 ・学期毎に小学校と校区内の幼保との連携会議を開催する。 ・新1年生の学級編制に、幼保からの情報を活用する。	A	【教務主任、6年担任、特別支援CO、1年担任】 ○小小交流を通して、相互理解につなげることができた。 ○出前授業やワークショップでの交流等を通して、中学校生活への期待感を高めることができた。 ○年間計画に沿って、各学期ごとに幼保小連携会議を行い、1年生の生活や学習の様子や職員の相互参観などについて話し合った。 ○年長児の「学校体験」や「なりきり体験」を実施し、小学校へのなめらかな移行を目指した。 ○特別な配慮を要する新1年生については、聞き取りや参観を行い、新年度の学級編制に役立てた。	・小中連携に関しては、これまで実施してきた各取組を内容や開催時期を見直ししながら実践していく。 ・特別支援学級に進級予定児童の不安を和らげるための柔軟な交流・体験授業等を計画していきたい  ・就学児に関しては、幼保小連携会議、相互参観等の機会を活用し情報収集を行いながら適切な連携を目指していきたい。
	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の推進	・電子黒板の活用	・ICT利活用について校内研修を行い、全職員が効果的な活用の仕方を学ぶ。(年3回以上) ・全学級での電子黒板の効果的な活用の方法をさぐり、児童の学力向上に役立てていく。	・情報教育コーディネーターを中心に、校内での利活用についての推進を促す。全職員による計画的な研修を年3回行う。また、希望者によるミニ研修を随時行う。 ・各教科・領域において、児童の意欲を向上させたり理解を助けたりする手段の一つとして、ICT機器を活用した授業を1日1回以上行う。 ・デジタル教科書の効果的な活用方法について研修を行う。	A	○研修会を開き、タブレットPCの利用方法について周知することができた。 ○毎日各クラスで、電子黒板を活用した授業が行われるようになり、児童の学習意欲の向上や基礎・基本の定着に効果が見られるようになった。 ○校内研究と関連させながら、研修を行うことができた。日常的に全職員が活用できるようになってきた。	・タブレットPCの活用方法について、研修を行い、理解を深めていった。 ・I日常的に情報交換を行うしくみをつくり、ICT利活用のスキル差を埋めたい。 ・算数科だけでなく、他教科・領域での具体的な利活用について研修を行い、職員のスキル向上につなげていきたい。
	○小学校低学年の学習環境の改善充実	・基本的な生活習慣の定着 ・学力向上 ・学習習慣と基礎・基本の定着	・学校生活のきまりや学習のきまりを定着させる。 ・国語科・算数科における基礎・基本の定着を図る。	・目標が達成できている児童を称賛し、他の児童の実践意欲を高める。 ・国語や算数の基礎・基本的なスキルを向上させるための指導方法を工夫・改善する。 ・授業の終末や小単元ごとに小テストを行うなどして、学習の定着の度合いを確かめる。 ・つまずきが見られる児童には個別に指導を行う。	A	【1,2年担任】 ○学校生活や学習のきまりを守ろうと努力している児童が増えてきた。 ○授業を工夫したり、適切な量の宿題を出したりして、児童に基礎的な力が身に付くようにした。 ○振り返りカードを使って、日々の生活の振り返りを行うことができた。 ●漢字や計算は定着してきた児童が多いが、個人差が大きい。	・児童を賞賛することで、意欲的に学習に取り組む落ち着いた学校生活を送っている。学習内容の定着に個人差が大きい。十分とはいえない児童については個別指導などを繰り返し行っていく。生活のきまりについては、発達段階に応じた伝え方で繰り返し指導を行う必要がある。 ・漢字や計算の小テストを行うことで、早めにつまずきを見つけることができた。チャレンジタイムの積み重ねにおいても、計算力の定着を図るように努めてきたが、その内容については、再考したい。

## ② 豊かな心の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針	・学校教育目標および経営ビジョンの周知	・保護者の周知率を95%、児童の周知率を85%とする。	・学校だより、ホームページ、PTA総会、学級懇談会、地域ふれあい協議会などを通じて知らせる。 ・「勸興魂」を合言葉として、保護者、児童への周知・定着を図る。	A	○学校教育目標等の周知率は保護者が95.8%、児童が99.4%と目標を達成できた。児童に関しては昨年度より2ポイント多い周知率になっており、「勸興魂」の合い言葉が広く周知されてきている。保護者への周知については、今後方法等を工夫する必要がある。	・引き続き来年度は、保護者・児童の周知率を100%という高い目標設定にしたい。そして、児童にも保護者にも具体的な行動目標を提示したい。学校だよりや全校朝会等でおりにふれて周知を図りたい。

	<p>●心の教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の充実</li> <li>・人権・同和教育の充実</li> <li>・異年齢集団による活動の深化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間の充実や体験活動・ボランティア活動等への取り組みを通して、豊かな心を育む。</li> <li>・地域や保護者の方に道徳の授業を公開する。</li> <li>・気持ちのよいあいさつができていない子どもを80%とする。</li> <li>・異年齢集団活動「はと活動」で、お互いを思いやる気持ちを育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画を見直し、「わたしたちの道徳」と関連づけた授業を行っていく。</li> <li>・地域や学校で行う体験活動と道徳の時間との関連を図った授業を行う。</li> <li>・授業参観やフリー参観デーの時に、必ず道徳の授業を公開する。</li> <li>・声の大きさ、場に応じた挨拶という視点であいさつ運動を進める。</li> <li>・ひびきあいタイムの計画的運用を行う。</li> <li>・共遊の時間において、反省の時間を確保し、活動を振り返らせる。</li> </ul>	A	<p>【道徳担当、人権・同和教育担当、縦割り活動担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○フリー参観デー等に、地域や保護者の方にふれあい道徳の授業を公開することができた。</li> <li>○「ひびきあいタイム」などで学んだことを道徳でも取り上げ、深く考えさせることができた。</li> <li>○アンケートより、進んであいさつをする児童が94.9%で、昨年度とほぼ同様のよい結果を得られた。</li> <li>○「ひびきあいタイム」でほかほか心の内容で劇や読み聞かせを行い、学級全体で考える場を作る手助けとなった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の教科化に向けて、年間計画の見直しを図る必要がある。また、教職員が教科化についての理解を深める必要があるため、研修会などを行ったほうが良い。</li> <li>・「進んであいさつをする」ができていない児童は多いが、声の大きさや場に応じた挨拶、気持ちのよい返事という点では不十分な点がある。具体的な目標の設定を行い声かけを行っていきたい。</li> <li>・人権・同和教育の授業実践交流会開催を機に、人権・同和教育の視点で教育活動を見直し、授業実践につなげていきたい。</li> </ul>
教育活動	<p>●いじめの問題への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止等の体制の構築</li> <li>・いじめに対する共通理解と取り組むための共通認識の獲得</li> <li>・いじめの未然防止</li> <li>・いじめの早期発見</li> <li>・いじめに対する早期対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止対策の啓発を行う。</li> <li>・「いじめ・命を考える日(毎月1日)」を中心に据えて、児童の人権意識を高める。</li> <li>・「いじめ問題」に関する校内研修を行い、職員の人権意識を高め、実践力をつける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ防止対策委員会」並びに「拡大委員会」を年2回開催する。</li> <li>・毎月1回いじめ・いのちアンケートを実施し、担任、管理職が目を通しいじめの早期発見・早期対応に努める。</li> <li>・全校朝会や学年朝会等で、「いじめ問題」に関する指導を行う。</li> <li>・毎週木曜日に、児童について共通理解する時間を設定する。</li> <li>・Q-Uテストを実施し、児童や学級の様子を把握する。</li> <li>・外部専門機関との連携を図る。</li> </ul>	A	<p>【生徒指導、教育相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「いじめ防止対策委員会」、「拡大委員会」を開催し、委員の方々と本校児童の様子と今後の対策について共通理解を図ることができた。</li> <li>○毎月1日にいじめ・いのちアンケートを児童と保護者に実施した。気になる事案については、管理職・生徒指導主任との連携で直ちに児童への聞き取りと指導を行うとともに、保護者にも連絡をし、早期解決に努めた。また、各学期の始業式で「いじめ撲滅」のための指導を全校的に行った。</li> <li>○毎週木曜日に情報交換会を行い、気になる事例があれば、全職員による共通理解を図ることができた。</li> <li>○Q-Uの活用の仕方に関する研修を行い、2学期以降の学級経営に生かすことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート実施については、来年度以降も毎月1日、情報交換会については、毎週木曜日など、定期的な実施をすることで、全職員での共通理解ができ、いじめに対する未然防止が行えると考えている。アンケートに書かない児童への書かせ方や個別の教育相談のやり方を模索する。</li> <li>・不登校傾向にある児童について、ソーシャルワーカーや福祉・行政と連携しながら家庭も含めた支援についてこれからも考えていく必要がある。本人に状況を共有、確認し、場所、時間の確保、無理のない声かけを続けていく必要があると考える。</li> <li>・Q-Uを実施し、学級経営に生かしていく。</li> </ul>
	<p>○開かれた学校づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会、保護者との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の共催を通して相互交流を密にする。</li> <li>・各学年で少なくとも1単元は地域に密着した総合的な学習の時間や、地域教材・地域人材を活用した活動を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域合同のふれあい運動会を開催する。</li> <li>・勤興まつりや公民館との合同行事を推進する。</li> <li>・総合的な学習の時間では地域学習を中心に展開を図る。</li> </ul>	A	<p>【教頭、教務主任、生活科・総合的な学習担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○総合的な学習の時間等では、地域の方をゲストティーチャーとして招き、専門的な指導を受けることで、児童が意欲的に学習することができた。</li> <li>○勤興まつりでは、保護者や地域と連携のもと子どもたちの発表の場を設けることができた。ただ、役割や仕事の分担があいまいなところがあり、スムーズに進まない部分が見られた。</li> <li>○生活科・総合的な学習の時間に、地域の各種団体の力を借り、学習を進めることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間をより充実したものにするためには、担任とゲストティーチャーとの打ち合わせ等の時間をどのように確保するかが課題である。そのためには、年間の指導について詳細な計画が必要である。</li> <li>・学校、保護者、地域との話し合いを綿密に行い、役割分担についても具体的に決めておくとともに満足いく勤興祭りになると考える。</li> </ul>

③ 特別支援教育の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別支援教育	・個別支援が必要な児童への支援体制の確立 ・特別支援教育の充実	・支援を要する全ての児童の個別の支援計画を作成する。 ・職員間で積極的に情報交換を行い、支援の方法を探る。 ・教職員全員が、特別支援教育に関する知識を身につけ、適切な対応について共通理解する。 ・児童・保護者に対して啓発を行う。	・特別な支援を要する児童の個別の指導計画を作成し、毎週情報交換会の時間に記入したり、情報を共有したりする。 ・校内教育支援委員会を必要に応じて開催する。 ・特別支援教育の研修会を年間を通して計画的に位置づけ、最新の情報を得たり、適切な対応について共通理解したりする。 ・「ふれあい給食」や「カレンダー作り」、「勸興ゆうびん局」等を通して児童に啓発を行う。 ・特別支援教育の推進のために、PTA総会で説明をしたり便りを保護者に配布したりして、保護者への啓発に努める。	B	【特別支援教育, 特別支援教育CO】 ○毎週木曜日に情報交換会を位置づけ、生活指導員の支援記録を活用しながら要支援児童の記録や支援方法についての話し合いを行った。 ○各学級担任が年2回、共通のチェックシートを実施し、児童の実態把握や変容、支援の方向性を見極めることができた。 ○必要に応じて校内支援委員会等を開き、支援方法や支援体制を考へたり専門機関との連携をとったりした。 ○定期的に職員研修を行い、全職員の共通理解を図り、特別支援教育に関する意識を高めることができた。 ○「1年生との交流会・ふれあい給食・勸興郵便局・カレンダー作りと配布」等の活動を通して、特別支援学級の児童と全校児童との交流活動を継続的に実施することができた。 ●「障害のある児童の理解」については、保護者アンケートで8割弱という結果になり、啓発不足であった。	・特別支援教育部会を開き、担当者の資質向上を目指し指導支援の方法や自立活動の進め方等についての研修を深めていきたい。 ・新入学説明会などの機会をとらえて「特別支援学級や通級指導教室」の保護者への啓発を行っているが、今後も引き続き学校だよりを利用したり、新たにPTA講演会などを活用して、啓発活動を多様化していく必要がある。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	●健康・体づくり	・運動に親しむ習慣の育成 ・望ましい食習慣の育成	・毎日進んで体を動かそうとする児童を育てる。 ・朝食をとって登校する児童の割合を95%以上とする。	・月に1回程のペースで「勸興体操」を行う。 ・「なわとび」や「ボール遊び」、「一輪車」などに挑戦させ、外遊びを奨励する。 ・「球技」などの大会を企画する。 ・「保健便り」や「給食便り」等を通して早寝・早起き・朝ご飯の啓発を進める。 ・学校栄養職員や養護教諭との連携を図り、学級活動や教科指導などで食の大切さや健康についての意識向上を図る。	B	○「勸興体操」への取組は、運動会前後に集中したため、年間通しての取組を計画する必要がある。 ○体育外部講師派遣事業により、準備運動段階で体づくり運動を取り入れたことで、1時間の体育の学習の中で運動量を保障することができた。 ○「保健だより」や「給食だより」を発行し、学校栄養職員や養護教諭と各担任が連携して授業を実施するなどして、健康的な生活習慣の確立に向けての啓発を行うことができた。 ●校舎改修工事に伴い、運動場の広さが半分以下になり、全体的に外遊びをする児童が減った。	・本校の伝統を受け継いでいく意味でも「勸興体操」を年間行事に位置づけ実施する。 ・運動委員会や計画委員会とタイアップした球技会や全校運動を企画・実践し、自ら運動に親しむ態度を育成する。 ・学校栄養職員や養護教諭と連携した食育・健康教育・性教育等の授業実践に積極的に取り組む。

#### 4 本年度のまとめ・次年度の取組

◇学校の教育活動について、今年度も学校だよりやホームページ、PTA総会、地域のふれあい協議会など、機会あるごとに広報を行ってきた。その結果、地域や保護者の学校に対する理解と協力を得ることができている。

◇本校の教育の特徴の一つである複数担任制を活かし、担任が協働して児童を多面的に見取り、指導を行うことができている。

◇学力向上のために、佐賀県及び全国学力・学習状況調査の結果を全職員で分析し、年間を通して、4、5、6年生だけでなく、全学年での学習指導に力を入れてきた。校内研究で算数科を中心にノート指導や「かいわタイム」を取り入れ、児童の数学的な考え方や言語能力の向上を図った。自然に学び合う姿が見られ、学習意欲の向上へとつながった。また、すくすくテストを4年生以上で実施することにより、基礎学力の定着を図ることができた。

◇情報教育コーディネーターを中心に、ICT利活用に関する校内研修会やミニ研修会を計画的に行い、全学年に導入された電子黒板の活用の充実を図った。そのことにより、「わかる授業」はもちろん、児童の学習意欲の向上や学習内容の定着が図られた。

◇毎週、全職員が児童について情報交換をする時間を確保し、共通理解をすることができた。毎月、いじめアンケートを実施し、気になる事案については本人への聞き取りや保護者への連絡を通して早期対応を行い、心豊かな児童の育成といじめのない学級づくりの実現に努めた。

◇地域や保護者と連携した教育活動については、保護者、職員共に肯定的で、地域ぐるみで児童を育てているとの意識が高い。また、児童も連携した行事や活動を楽しみにしており、地域を愛する心が育っていると感じる。

◇学校栄養職員や養護教諭と連携しながら、食の大切さや健康に関する指導の充実を図ることができた。

◆基礎学力の定着、思考力・活用力の向上を図るため、指導方法・指導形態等の工夫改善に来年度も真摯に取り組んでいく。また、学級担任と少人数TT担当教員との連携をより有効に機能させ、個に応じたきめ細やかな学習をいっそう進めていきたい。長年取り組んできた算数の校内研究の成果を他教科に広げていきたい。

◆読書ボランティアの活用、読書活動を生かした心の教育など、図書館教育を推進していきたい。

◆特別支援教育のさらなる推進のため、特別支援学級特別支援教育に関して情報発信する方法を工夫していきたい。PTA総会において話に盛り込んだり、特別支援教育だよりを保護者に配布したりして、児童・保護者の啓発に努めていきたい。

◆来年度もICT利活用による効果的な授業のあり方、デジタル教科書の効果的な活用方法についての研修をさらに進めていきたい。

●は共通評価項目、○は独自評価項目